

令和4年度事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

法人の概要

法人の名称：公益財団法人 五井平和財団

設立登記日：平成22年4月1日

法人の目的：社会教育等の様々な分野において、平和に関する普及啓発及び調査研究等を行うとともに、国際理解に資する交流事業等を行い、もって世界平和に寄与することを目的とする。

法人の所在地：東京都千代田区平河町1-4-5 平和第1ビル

公益目的事業1 平和教育・平和普及啓発事業

1. 講演会等の普及啓発

(1) 2022年度五井平和財団フォーラム

開催日 令和4年11月23日(祝・水) 13:00～15:15 オンライン配信

テーマ Soil<土> Soul<魂> Society<社会>

～自分と世界を変革する生き方～

視聴回数 日本語：3,333回 英語：393回 (YouTube)

内 容 第1部

五井平和賞受賞記念講演

平和賞受賞者 サティシュ・クマール / 平和活動家、エコロジー思想家
対談：クマール氏の生き方・世界観を掘り下げる

出演者 サティシュ・クマール、西園寺昌美会長、西園寺裕夫理事長

第2部

ダイアログセッション：新しい社会はどうすればつくれるか

出演者 サティシュ・クマール

武井浩三 / 社会活動家、社会システムデザイナー

宮城治男 / NPO 法人 ETIC.創業者

(2) 講演会

①「講演会シリーズ：21世紀の価値観」オンライン配信

第62回講演会

講 師 西郷孝彦 東京都世田谷区立桜丘中学校 前校長

テーマ 子どもたちが「今」を幸せに過ごせるには

開催日 令和4年6月19日(日)

参加費 賛助会員・学生 1000円、一般 1500円

参加者数：合計 321名(内訳：賛助会員 219名、学生 3名、一般 71名、
個人特別会員招待 28名ほか)

第63回講演会

講 師 尾角光美 一般社団法人リヴオン代表理事

テーマ 自他のいのちを大切に生きる生き方

開催日 令和4年9月25日(日)

参加費 賛助会員・学生 1000円、一般 1500円

参加者数：合計 289名(内訳：賛助会員 215名、学生 0名、一般 48名、
個人特別会員招待 27名)

第64回講演会

講 師 加藤秀樹 一般社団法人構想日本代表

テーマ ツルツルとザラザラ、成長と成熟、AI と身体

—私たちは本当に生きているか—

開催日 令和5年3月21日(祝・火)

参加費 賛助会員・学生1000円、一般1500円

参加者数：合計241名(内訳：賛助会員180名、学生0名、一般32名、
個人特別会員招待29名ほか)

②中高生キャリア支援プログラム「私のコンパス」オンライン配信

第3回

講 師 鬼丸昌也 認定NPO法人テラ・ルネッサンス 理事・創設者

テーマ こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した

—その小さな「積み重ね」があなたの未来を動かす

開催日 令和4年8月10日(水)14:30~16:00

参加者数 合計39名(中高生34名、オブザーバー(教員等)5名)

第4回

講 師 新井和宏 株式会社eumo(エモ)代表取締役

テーマ 幸せな人は「お金」と「働く」を知っている

開催日 令和5年3月28日(火)14:30~16:00

参加者数 合計58名(中高生49名、オブザーバー(教員等)9名)

(3) Living New ワークショップ

人が輝ける生き方を応援し、人と人、人と社会をつながけながら、新しい未来
をつくっていくプロジェクト

○あるがままの自分を知る・気づく・見つめる場の提供

○人の在り方、考え方、感じ方の多様性を共感、共有する場の提供

○自分の特性を社会に活かすサポート

オープンカフェ東京 令和4年8月21日(日)オンライン開催 20名

令和5年1月29日(日)オンライン開催 19名

L Nコース・L Nコース修了生の会は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み中止

(4) 賛助会員との交流および活性化事業

①2022年度五井平和財団会員総会「報告と感謝の集い」

開催日 令和5年2月26日(日)オンライン配信

対 象 賛助会員限定

視聴者数 337名 再生回数：674回

内 容 事業報告、賛助会員との交流、質疑応答など

②地方懇談会 令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み開催中止

③ボランティア活動

—コミュニケーター制度

コミュニケーター通信 Vol.43~Vol.45 発刊

—ピースフル・プロジェクト

月間テーマ

4月 当たり前を見直そう／5月 いろいろな角度から見てみよう

6月 静かな時間を持とう／7月 周囲の人の長所を探して伝えよう

8月 平和について対話しよう／9月 新しい発見をしよう

10月 世代を超えて交流しよう／11月 自分の価値観を見つめよう

12月 必要のないモノは手放そう／令和5年1月 新しい一歩を踏み出そう

2月 つながりを探そう／3月 対立するものと仲よくしよう

ー作文選考ボランティアとの対話会

8月22日（月）13：30～15：00

参加者数 13名

（5）国際理解に資する交流事業

①国連・ユネスコとの交流事業

- ユネスコ主催「ESD-Net 2030」
10月4日の発足ウェビナーや3月30日のESD指導法ウェビナーにオンライン参加
- 第13回「ユネスコと公式関係を有する国際NGOフォーラム」
11月22日オンライン参加
- ユネスコ・NGO国際会議
12月14日～16日オンライン参加

②国際機関・海外民間団体との交流事業

- モハメッド6世環境保護財団／モロッコ
連携事業として国際交流と環境保護をテーマとしたプログラムを実施
＜詳細は8.ESD関連事業で報告＞
- ワールド・マーケティング・サミット「持続可能な社会を実現するためのマーケティング変革」
フィリップ・コトラー博士が発起人で、世界クラスのリーダー101人が11月6日（日）、7日（月）にオンラインで講演。西園寺理事長が「平和」部門でビデオ講演。
- 世界教育会議「子どもたちの未来」
11月5日（土）～7日（月）と14日（月）～16日（水）の2回配信された本会議に、西園寺会長・理事長が「一つに統合された人類—地球的な心を目覚めさせる」にビデオ出演。

③ May Peace Prevail On Earth International（姉妹団体）日本オフィス活動協力

ー第30回広島ピースセレモニー

8月6日（土） オンライン開催

MPPOE ニューヨーク・オフィス、SINE Network と共催

約8000名の参加者

吉川里香 MPPOE International 副理事長スピーチ

ー第23回長崎ピースセレモニー

8月9日（火） 長崎平和公園

約30名の参加者

吉川里香 MPPOE インターナショナル副理事長スピーチ代読

ーPeace Prevails Program 普及支援

MPPOE インターナショナルが開発した小学生向けの平和教育教材

とその活用のための教員トレーニング・プログラムの普及支援

ー日本語ウェブサイトおよびメールマガジン等による情報発信

<http://www.worldpeace-jp.org/>

ー平和普及自主活動

年月日	活動内容
2022.05.01～11	北海道旭川市でピースポールメンテナンス7本
2022.06.21	夏至の日のリレーWPPCに全国から95名参加
2022.08.06	原爆の日に広島 WPPC 開催 参加合計約4万名（オンライン）
2022.08.07	岡山県日詰山サムハラ神社にて第7回 WPPC 開催 参加約140名 インターネット中継
2022.08.09	原爆の日に長崎 WPPC 開催 参加約30名

2022.08.27	東京都品川区の戸越八幡宮にピースポール建立
22022.09.1～28	三重県伊勢市の百五銀行にて、ピースパルアートコンテスト展示会を開催
2022.09.01-10.31	福井県と石川県の神社でピースポール 7 本修復
2022.09.21 国際平和デー	ポーランドのワルシャワ市平和公園で国際平和デー行事を開催
	岡山県岡山市中心部でピースウォークと WPPC を実施。県内外から参加 50 名
	ナイジェリア・ウヨ市のホテルにて国際平和デー記念式典。平和賞のトロフィーとして卓上ピースポールを 32 名に贈呈。参加約 200 名 テレビと新聞で報道
	アメリカのシカゴピースデーにてフラッグセレモニー。オンライン開催
2022.09.22	秋分の日のリレーWPPC に全国から 116 名が参加
2022.11.1 -4	長崎県壱岐島のピースポール 2 本の修復
2022.11.22	NY オフィス主催のグローバルピースポールデーのオンラインイベントに参加 400 名
2022.11.25	フィリピン・イリガン市のラサールアカデミーのピースポール建立にゲスト出席
2022.11.27	広島県宮島の大聖院にてフラッグセレモニー&コンサート 参加 50 人
2022.12.21	冬至の日のリレーWPPC で全国から参加 60 名
2023.02.01-3.20	滋賀県と福井県で 5 本のピースポール修復
2023.03.20	春分の日のリレーWPPC に全国から参加 50 名

(6) 「富士宣言」推進 (パートナー組織および事務局として)

① ソウル・オブ・ウィメン

女性の会：幹事会定期開催

富士宣言・SOW 交流会 9 月 12 日 参加 20 名

平和賞受賞者ニッポン・メータ氏との交流会 参加 9 名

② 富士宣言 7 周年企画 テーマ：自らの慈愛を引き出し、地球を癒す

・各界のリーダー 20 名からの 7 周年記念メッセージをブログ、フェイスブック、メルマガにて配信

(7) 各種情報媒体の活用

①機関誌「平和の創造」発行

季刊 各約 4,000 部作成と発送

活動報告、新しい方向性、イベント情報等を掲載

②MPPOE ニュース発行

季刊 各約 4,000 部作成と発送

ピースメーカーの活動報告、キャンペーン情報等を掲載

③インターネット・ソーシャルネットワークサービス (SNS)

<五井平和財団>

ウェブサイト、フェイスブック (日英) / ツイッター 定期更新

Instagram 定期更新

YouTube 公式チャンネル (日英)

Flickr (フリッカー：オンラインアルバムサービス)

メールマガジン (日英) 発行

<ESD ユース>

ESD 日本ユース・コミュニティ / フェイスブック

ESD ユース参加者運営の SNS

「ESD 日本ユース情報局」フェイスブック / ツイッター

ESD ユース地区ごとの LINE グループ

<地球っ子広場>

フェイスブック定期更新

<社会起業家コンペティション>

オンライン・コンペティション

オンライン・キャンパス

<富士宣言>

ウェブサイト／フェイスブック（日英西）定期更新

メールマガジン

ソウル・オブ・ウィメン／フェイスブック（英）

<Source of Wonder>

ウェブサイト（英）

メールマガジン（英）

YouTube 公式チャンネル（英）

<平和科学調査研究会>

ウェブサイト（会員制）

<MPPOE>

ウェブサイト／フェイスブック定期更新

メールマガジン／ツイッター発刊

④各種行事の動画配信

・「講演会シリーズ：21 世紀の価値観」

西郷孝彦講演会 子どもたちが「今」を幸せに過ごせるには

尾角光美講演会 自他のいのちを大切にする生き方

加藤秀樹講演会 ツルツルとザラザラ、成長と成熟、AI と身体
—私たちは本当に生きているか—

・中高生キャリア支援プログラム「私のコンパス」

鬼丸昌也 こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した

—その小さな「積み重ね」があなたの未来を動かす

新井和宏 幸せな人は「お金」と「働く」を知っている

・2022 年度五井平和財団フォーラム

Soil<土> Soul<魂> Society<社会> ～自分と世界を変革する生き方～

・2022 年度会員総会「報告と感謝の集い」

⑤各種行事の DVD 制作

・2022 年度会員総会「報告と感謝の集い」

・2022 年度五井平和財団フォーラム

2. 顕彰

五井平和賞

サティシュ・クマール

平和活動家、エコロジー思想家（イギリス）

サティシュ・クマール氏は、思想家、活動家、教育者として、その生涯を平和で持続可能な世界をつくるために捧げてきました。人が自然と調和し、精神性を大切に、平和で公正な社会をつくるという、ソイル（土）・ソウル（魂）・ソサエティ（社会）の三つのバランスが取れたホリスティックなビジョンを掲げ、シンプルで美しい生き方を提唱してきました。

その哲学を学ぶ大学「シューマッハ・カレッジ」を設立し、ヘッド（頭）・ハート（心）・ハンド（手）を統合した先駆的な教育を実践するなど、様々な普及啓発活動を通して、また、エコロジカルでスピリチュアルな原則の体現者として、多くの人々に、自らを変えることで世界を変えるようインスピレーションを与えてきました。その長年の功績が評価されました。

■受賞記念講演 令和4年11月23日（祝・水）2022年度五井平和財団フォーラムで配信

■選考委員

委員長	佐藤 禎一	東京国立博物館名誉館長・元ユネスコ特命全権大使（当財団顧問）
	明石 康	国立京都国際会館理事長・元国連事務次長（当財団理事）
	加藤 秀樹	一般社団法人構想日本代表、京都大学経済学研究科特任教授
	黒川 清	東京大学名誉教授、政策研究大学院大学名誉教授
	近衛 忠輝	日本赤十字社名誉社長
	西園寺昌美	五井平和財団会長
	田坂 広志	多摩大学大学院名誉教授・シンクタンク・ソフィアバンク代表

*敬称略・50音順

3. 研究会等の調査研究

（1）平和科学調査研究会

- ①全体会 令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み中止
- ②運営委員会 令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み中止
- ③分科会活動
 - 幸せの価値観：情報収集、調査資料ジャンル別整理等
 - 震災復興：震災から考える日本の未来と自然について調査
 - 科学的事例調査：がん治療事例、宇宙太陽光発電等調査
 - 平和へのシナリオ：平和へのプロセス研究・ディスカッション
 - 自由研究：最先端物理学理解に向けた基礎理論の直観的把握

（2）平和についての意識調査アンケート

対 象：2022年度国際ユース作文コンテスト参加者

参加人数：143カ国 4,272人（うち日本から270人）

形 式：任意の選択式

目 的：子どもや若者の平和意識を調査し、平和の実現に向けて若者らが必要としていること等を分析、今後の青少年教育プログラム等に反映

- ・自分にとって一番大切な平和とは何か
- ・昔に比べて平和になったと思うか
- ・良くなったと思う点は何か
- ・世界が平和になるために、解決しなければならない重要な課題は何か
- ・平和のためにやっていること、やってみたいことは何か など

4. 駐日外交官等国際交流プロジェクト

- (1) 群馬県立女子大学「持続可能な社会に向けて-SDGs リレー講座-」
 令和4年10月25日、国際コミュニケーション学部1年生約70名を対象に、
 フィンランド大使館 一等書記官（経済・通商）ニーナ・ヴァイサネン氏による
 講演会（テーマ「フィンランドと持続可能な開発目標」）を共催
- (2) 駐日外交官による交流プロジェクト

実施日	実施校（団体）・参加人数	教育課程における位置付け	講師（敬称略）
令和4年 5月28日	中央大学附属高等学校 （東京都小金井市） 約50名	選択科目	インド大使館 一等書記官（政治部） スマン・カンソティヤ
令和4年 10月17日	静岡雙葉中学校・高等学校 約50名	総合的な学習	ベトナム社会主義共和国大使館 二等書記官／教育部長 ヴー・ティ・リエン・フォン 在日ベトナム学生青年協会副会長 チン・ホン・コン
令和4年 10月18日	千代田区教育委員会事務局 約20名	教員研修 「国際教育推進協議会」	モロッコ王国特命全権大使 モハメッド・ラシャッド・ブフラル
令和4年 10月26日	三輪田学園高等学校 （千代田区） 約40名	英語科	英国大使館 二等書記官 貿易政策部 キャサリン・タイラー

5. 2022年度 国際ユース作文コンテスト

ユネスコの「持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（ESD for 2030）」
 を推進する事業として開催

主 催 公益財団法人五井平和財団

後 援 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、NHK、日本経済新聞社、
 日本私立中学高等学校連合会、東京都教育委員会

協 賛 セイコーグループ株式会社、プラス株式会社

テーマ 『わたしの価値観』

応募数 世界152カ国から19,986点

（子どもの部6,507点、若者の部13,479点）

受賞者発表 令和4年10月31日（月）五井平和財団ウェブサイトにて発表

文部科学大臣賞（各1点）

＜子どもの部＞ありのままの自分

佐藤 和花（12歳／日本）

＜若者の部＞人を殺してはならない

ソフィア（20歳／ロシア）

優秀賞 各3点

入 選 各5点

佳 作 各25点

学校特別賞 3校

学校奨励賞 64校

- 選考委員 委員長 千玄室（茶道裏千家前家元、ユネスコ親善大使、当財団理事）
 西園寺昌美（五井平和財団会長）
 都倉俊一（作曲家、日本音楽著作権協会特別顧問）
 成田純治（株式会社博報堂相談役、当財団理事）
 服部真二（セイコーグループ株式会社代表取締役会長
 兼グループ CEO 兼グループ CCO）
 松浦晃一郎（アフリカ協会会長、元ユネスコ事務局長、当財団評議員）
 美内すずえ（漫画家）
 矢崎和彦（株式会社フェリシモ代表取締役社長）
 葉祥明（絵本作家）

①作文コンテスト「受賞者の集い」

開催日： 11 月 12 日（土）

参加者：上位入賞者 10 カ国 15 名（内日本人 5 名）が参加

内 容：グループに分かれて 2 つのテーマで対話

- ・他の受賞者の作文を読んで、心に残ったこと、感動したことを共有しよう
- ・他の人と価値観が違うことで面白かったこと、驚いたことはありますか

②受賞者フォーラム

過去の国際ユース作文コンテスト受賞者同士の交流により、平和の創造を目指すためのプラットフォームである、フェイスブック・グループ「受賞者フォーラム（Winners Forum）」（2019 年 4 月に開設）を拡充。現在、約 70 名が参加。

1 月 23 日（月）～29 日（日）：写真を使った自国の紹介

1 月 30 日（月）～2 月 5 日（日）：私のライフストーリー

2 月 11 日（土・祝）：オンライン交流会。今後の「受賞者フォーラム」のあり方についての意見交換

6. 地球っ子広場

（1）地球っ子広場各地区展開 令和 4 年度は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み休止

- 活動趣旨 子どもたちが放課後や休日に、広く社会と触れ合える居場所を創設し、保護者、地域の人々が集う、良き地域コミュニティを目指し、生命・平和・環境等を大人と子どもが共に学ぶ広場を運営

- 後 援 ユネスコ国内委員会

- 認定事業 ユネスコ本部より「ESD の 10 年の公式活動」認定を受ける

（2）地球っ子 e 広場

①「SDGs 親子カフェ」

日 時：6 月 4 日（土）10:00～11:30

内 容：「自分の長所をいかす」をテーマに対話。

参加者：2 名

②「おうちでテコンドー エクササイズ！」

日 時：7 月 18 日（祝・月）14:00～14:40

内 容：テコンドー国際師範によるテコンドー型の体験と簡単な韓国語講座。

参加者：3 歳から 11 歳の 10 名

③「SDGs 子どもみらいカフェ」

日 時：9 月 23 日（金）10:00～11:30

内 容：SDGs すごろくで社会課題を学び、対話。

参加者：2 名

④夏休み企画 「親切」をテーマにお話ししよう、絵を描こう！

日 時：8月7日（日）10：00～12：00

内 容：ピースパル国際アートコンテスト ワークショップ

参加者：5歳～11歳の6名

⑤地球っ子e広場

日 時：2023年1月15日（日）10：00～12：00

内 容：ダンス、英語教室、手話歌、マイニュース（自己肯定感向上 show&tell）

参加者：5歳～11歳の11名

⑥地球っ子e広場

日 時：2023年2月19日（日）15：00～16：30

内 容：小学6年生の子ども先生によるおりがみ教室

参加者：5歳～11歳の5名

⑦子どもたちの生きる力を養うプログラミング教室

日 時：2022年4月24日（日） 基礎・体験／1名、応用編／3名

5月29日（日） 応用Ⅰ／2名、応用Ⅱ／3名

6月25日（日） 基礎・体験／1名

6月26日（日） 応用Ⅰ／2名、応用Ⅱ／2名

7月31日（日） 体験／1名、応用Ⅰ／2名、応用Ⅱ／3名

8月5日（金） 基礎・体験／2名

8月20日（土） 応用Ⅱ／2名

9月11日（日） 応用Ⅰ／1名、応用Ⅱ／1名

9月17日（土） 基礎・体験／1名

10月15日（日） 基礎／1名

11月13日（日） 基礎・体験／2名、応用Ⅱ／2名

12月11日（日） 基礎・体験／1名、応用Ⅰ／1名、応用Ⅱ／2名

2023年1月21日（日） 基礎・体験／2名、応用Ⅰ・体験／2名、応用Ⅱ／1名

2月25日（土） 基礎・体験／1名、応用Ⅰ／1名、応用Ⅱ／1名

内 容：手のひらサイズのロボットを動かす多様なプログラミングで多様性への肯定感を育む

（3）地球っ子広場スタッフミーティング

①日 時：9月10日（日）13：00～15：30

参加者：8名

内 容：地球っ子e広場の運営について

②日 時：11月5日（日）13：00～15：30

参加者：4名

内 容：地球っ子e広場の運営について

③日 時：12月4日（日）13：00～15：30

参加者：4名

内 容：1月15日開催の地球っ子e広場実施について

7. 社会起業家育成プログラム

シチズン・アントレプレナーシップ・コンペティション（英語サイト）

内 容：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に資するアイデアやプロジェクトを募り、若者の社会起業を奨励・育成するオンライン・キャンパスおよびオンライン・コンペティション

主 催：五井平和財団、スティッフタンク・アントレプレナーシップ財団、デジタル・エキスパーツ・ユナイテッド

後 援：World Peace Youth、PEGASUS(Youth Employment Campaign)、World Assembly of Youth、YES Global Association

対 象：ユース部門／13 歳から 30 歳まで
アダルト部門／31 歳以上

期 間：3 月～8 月 31 日

コンペティション応募総数：ベスト・アイデア部門 約 200 件
ベスト・プロジェクト部門 90 件

選考方法：ウェブサイト上で最多得票を集めたエントリーにピープルズ・チョイス賞を授与

得票数により、各部門上位 10 位までのファイナリストの中から選考委員が最優秀賞、2 位、3 位を選考

選考委員：ギュンター・ファルティン（ベルリン自由大学教授）

西園寺裕夫（五井平和財団理事長）

ベルナード・コム（UNESCO 持続可能な開発のための教育プログラム・スペシャリスト）

パメラ・ピータース（Institute for a Sustainable Planet／Executive Director）

カースティン・フォスバーグ（Planeta Océano 創設者）

セスト・ジョバンニ・カスタグノリ（Future Cooperative 共同創設者）

ラヴィ・チョードリー（シーネクスト・コンサルティング&インベストメント会長）他

授 賞 式：12 月 14 日オンライン開催

<ユース部門>

■ベスト・アイデア

1 位 ローカルテック：地場産業の市場／

ビジャンカ・クリシュナ・シュレスタ（18 歳／男性／ネパール）

SDGs 目標 1：貧困をなくそう

SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

国外への出稼ぎ労働者が多いことから、地場産品の生産者が、購買者とデジタル市場で直接取引ができるアプリケーションを開発し、地域の経済と失業率の改善、手工芸品や薬草、食品などの地場産品の価値を高めることを目指すアイデア

■ベスト・プロジェクト

1 位 ビーフライ／ヨハン・セバスチャン・モスケラ（24 歳／男性／コロンビア）

SDGs 目標 2：飢餓をゼロに

SDGs 目標 13：気候変動に具体的な対策を

有機廃棄物を食べて成長し、高タンパク質な栄養源となった食用昆虫、アメリカミズアブの幼虫を加工し、養豚などの畜産農家へ、環境に優しい経済的な代替飼料として提供。これにより年間最大 504 トンの有機廃棄物を処理でき、焼却時の CO2 排出量を約 90 万トン回避できる。現在、プラント建設や設備投資などの創業資金に 5 万米ドル（約 680 万円）の投資を獲得するなど、今後の飛躍が期待される。

<アダルト部門>

■ベスト・アイデア

1 位 障害者のための職業センター／アイリーン・バンディ（39 歳／女性／ケニア）

SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

障害のある若者が、かご細工やビーズ細工などの工芸、石工、木工、溶接などの専門技術を習得できる職業センターを設立し、雇用の促進と自立を支援するアイデア。

■ベスト・プロジェクト

1 位 クジンバ・サービス／エフランセ・ユニス・ナムゲニー（34 歳／女性／ウガンダ）

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

レンガの廃材を活用したエコレンガや、プラスチック素材のエコタイルなどの製造販売をはじめ、適切な排水処理システムの提供など、持続可能で自然環境に配慮した住宅ソリューションを高品質かつ手頃な価格で提供している。
ナムゲニー氏が大学の電気工学科の講師も務めることから、技術を身につけた卒業生たちの雇用創出にも貢献している。

8. ユネスコ活動・ESD・SDGs 推進事業

（1）ユネスコ活動・ESD 関連事業

1. ユース同士の学び合いの機会の提供（オンライン）

① ESD ユース・マルシェ（オンライン自主勉強会）

日 程：令和 5 年 2 月 25 日（土）

参加者：ESD 日本ユース・コンファレンス参加者、学校関係者等
13 名

概 要：ユースが話題提供を行い、参加者との議論を通して
ESD・SDGs の学びを深める。

テーマ：3 校協働プロジェクト成功の裏側

2. ユース同士の連携や活動への支援

① 3 校協働 SDGs チャレンジ～GOALS～

日 程：令和 4 年 5 月～12 月（10 回実施）

参加者：晃華学園中学校高等学校、麗澤中学・高等学校、東京
立正中学校・高等学校の生徒 16 名

ESD 日本ユース・コンファレンス参加者 6 名
（社会人サポーター、担当教員）

概 要：首都圏のユネスコスクール 3 校による協働連携プログラム。
福島県いわき市の社会起業家協力のもと「福島から考える持続可能な未来」をテーマに、福島とオーガニックコットンに関する展示や出展活動を行う。
環境省主催「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』チャレンジ・アワード 2022」にて優秀賞・福島県知事賞を受賞したほか、ユネスコスクール全国大会等、多くの ESD 関係イベントにて事例発表。

場 所：東京都内、福島県いわき市、福島県双葉郡双葉町 等

② 公立中学校のキャリア学習での連携

日 程：令和 4 年 7 月 19 日（火）

参加者：四日市市立橋北中学校 1～3 年生 約 90 名

概 要：キャリア学習の一貫として、岡山市職員がオンライン授業を行う

③ 公立小学校の平和学習での連携

日 程：令和4年11月22日（火）

参加者：奈良市立東登美ヶ丘小学校6年生 約110名

概 要：総合学習における平和学習の単元で、広島県のNPO「カクワカ」共同代表がオンライン授業を行う。

④ 私立中学校のSDGs連続講座での連携

日 程：令和4年6月～令和5年1月

参加者：東京立正中学校1～3年生 約90名

概 要：総合学習を中心としたSDGs学習におけるプログラムデザイン等をサポート。まとめの全体発表会においては、大分大学教職学研究科准教授と連携したプログラムを行う。

⑤ 私立高校の修学旅行におけるSDGs学習での連携

日 程：令和5年1月26日（木）

参加者：東京立正高校2年生 約20名

概 要：岡山県での修学旅行SDGs学習をコーディネート。岡山市、岡山NPOセンター等の関係機関やNPOと連携をし、体験学習を含むプログラムを行う。

⑥ ESD関係団体との連携・協働

年間を通じて、全国のESD関係団体と連携し、全国のユースが有機的につながるよう、様々な形で支援。

3. 日本・モロッコ学校間交流

モハメッド6世環境保護財団との連携事業として、国際交流と環境保護をテーマとしたプログラムを実施。

参加校：（国内） 昭和学院中学校・高等学校、東海大学山形高等学校、名古屋国際中学校・高等学校

（モロッコ） アフメッド・ベン・デラ・アル＝イドリッシ学校、オウム・エルファドル公立学校、タンジェ・バンク・ポピュレール私立学校

① 日本・モロッコオンライン交流・協働プログラム

日 程：令和3年11月～令和4年5月（3回実施）

参加者：約40名（日本・モロッコ）

概 要：両国の文化紹介・交流に続き、世界水の日に向け、各校内での水資源の保護を共通テーマにしたプロジェクトに取り組む

4. ユネスコスクール支援

① 千葉県立市川昂高等学校

「開かれた学校づくり委員会」に委員として参加

② 八千代市立阿蘇米本学園

スクールコミュニティ・アドバイザー（サポート委員）として助言

5. ESD 岡山アワード

ESD 岡山アワードを運営委員としてアワード審査員を担当

6. ESD 活動支援センター

ESD 活動支援企画運営委員会のメンバーとして参加

（2）SDGs（持続可能な開発目標）推進事業

① 令和4年度ローカルSDGsキャンパス・ミーティング

日程および会場：

令和5年3月4日（土） 福岡県北九州市（パークサイドビル）

令和5年3月12日（日） 三重県四日市市（四日市商工会議所）

令和5年3月18日（土） 宮城県仙台市（フォレスト仙台）

参加者：約 50 名（3 会場）

目 的：持続可能な社会の実現を目指して、特に環境・経済・社会課題の解決や新たな価値の創造に地域で取り組んでいる、またはこれから取り組む意志があるユース世代を対象にしたセミナーの実施を通して、地域でローカル SDGs（地域循環共生圏）の実践に中心的に取り組む人材の発掘・育成を行い学びの機会を提供するとともに、セミナー後も地域における自発的な活動が起こるよう、同じ志を持つユースのネットワークを形成し、関係人口としてのユースと地域との関係づくりを強化

主 催：公益財団法人 五井平和財団

後 援：環境省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）、ESD 活動支援センター、宮城県、三重県、福岡県、宮城県教育委員会、三重県教育委員会、福岡県教育委員会、仙台市、北九州市、仙台市教育委員会、北九州市教育委員会、東北地方 ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター、九州地方 ESD 活動支援センター

協 力：株式会社 On-Co、北九州 ESD 協議会

② 自治体 SDGs コミュニティ・ミーティング

日 程：令和 4 年 6 月 29 日（水）

参加者：SDGs に関心のある自治体職員等 9 名

概 要：各自治体における事例を基にした意見交換を通して、経験や課題を共有し、各地での SDGs 推進の一助とする。

③ 2022 八千代子どもサミット

・第 1 回全体会議 5 月 11 日（水）

八千代市教育委員会や同市内 30 校の教職員ら約 40 名を対象に、「子どもができる SDGs の活動」をテーマに講話

・第 11 回中学生リーダー研修会 12 月 20 日（火）

八千代市内 30 校の中学生 22 名を対象に、「Think globally, Act locally ～ 今行っている活動を地域に広げるためには～」をテーマに講話

8. 青少年育成に係る若手指導者養成奨学金事業

採択者なし

選考委員（委員長）	成田 純治	株式会社博報堂取締役相談役（当財団理事）
	魚谷 雅彦	株式会社資生堂代表取締役社長兼 CEO
	大塚 久利	大塚刷毛製造株式会社前代表取締役会長
	西園寺裕夫	公益財団法人五井平和財団理事長
	竹田 恆和	日本オリンピック委員会前会長
	都倉 俊一	作曲家、一般社団法人日本音楽著作権協会特別顧問
	服部 真二	セイコーホールディングス株式会社代表取締役会長兼グループ CEO

附属明細書

令和 4 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 5 年 4 月

公益財団法人 五井平和財団